

第2章 現況と課題

1. 村の現況
2. 住民の意向
3. まちづくりの課題

第2章 現況と課題

1. 村の現況

1-1 位置・地勢

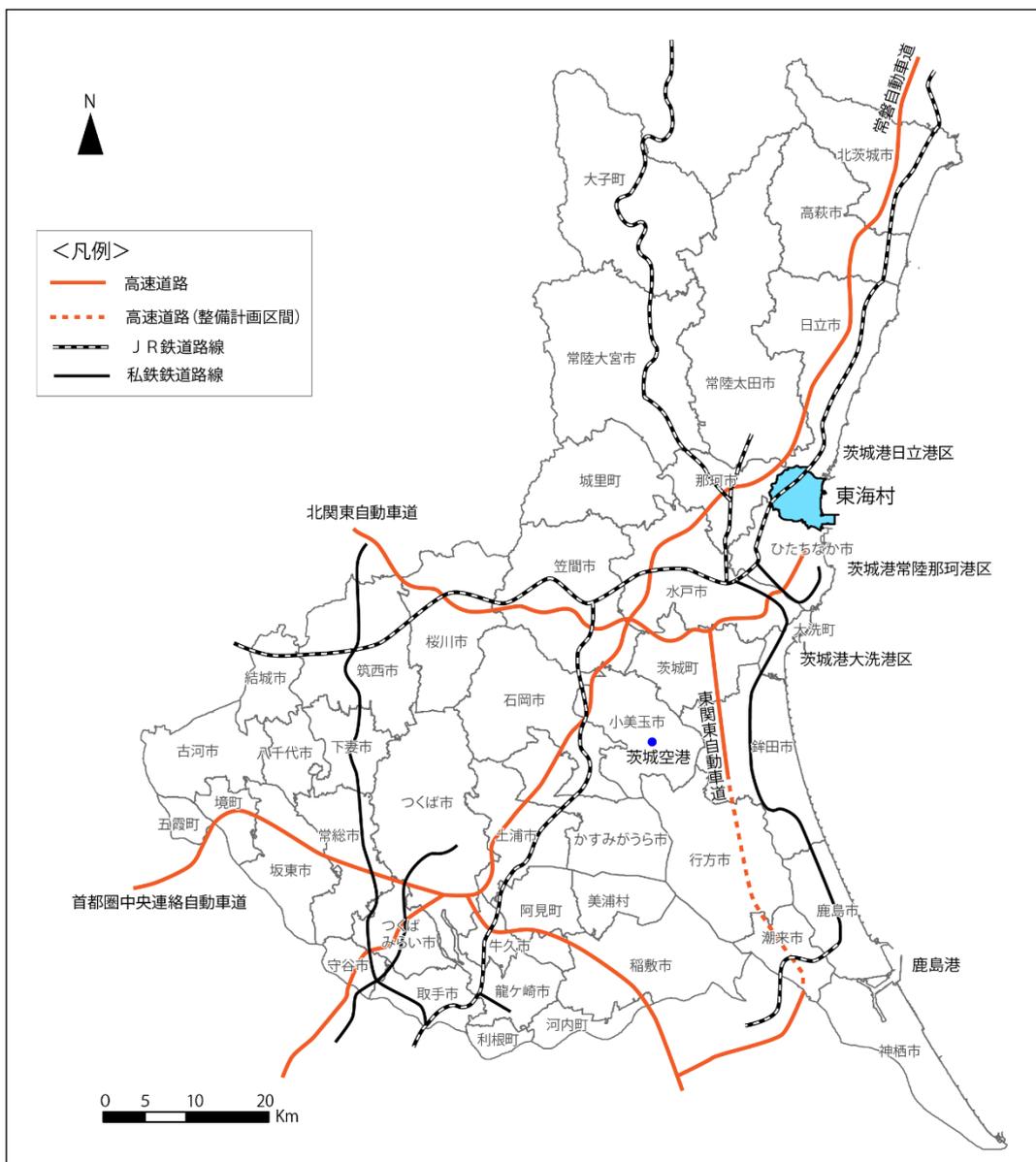
○本村は、県都水戸市から北東へ約15kmの距離にあり、東は太平洋に面し、西が那珂市、南がひたちなか市、北が一級河川の久慈川を境に日立市に接しています。

○関東平野の北東に位置しており、比較的起伏の少ない地形で、標高20~30mの台地と久慈川や新川流域沿いの標高6m前後の低地、砂丘となっている海岸部で成り立っています。

○村域は東西、南北ともに7.9kmで総面積は38.0km²*となっています。

※国土地理院による行政区域名積

【広域図】



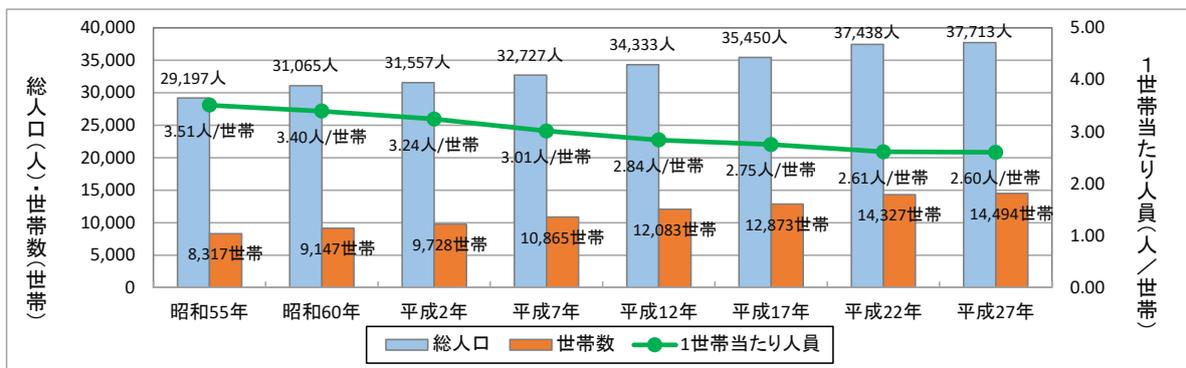
1-2 人口・世帯

(1) 人口・世帯の推移

○本村の総人口は、平成27年に37,713人、世帯数は14,494世帯となっています。年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口と生産年齢人口は減少傾向、高齢者人口は増加傾向であり、少子高齢化が進行しています。また、1世帯当たり人員は減少傾向であり、核家族化・単独世帯の進行がうかがえます。

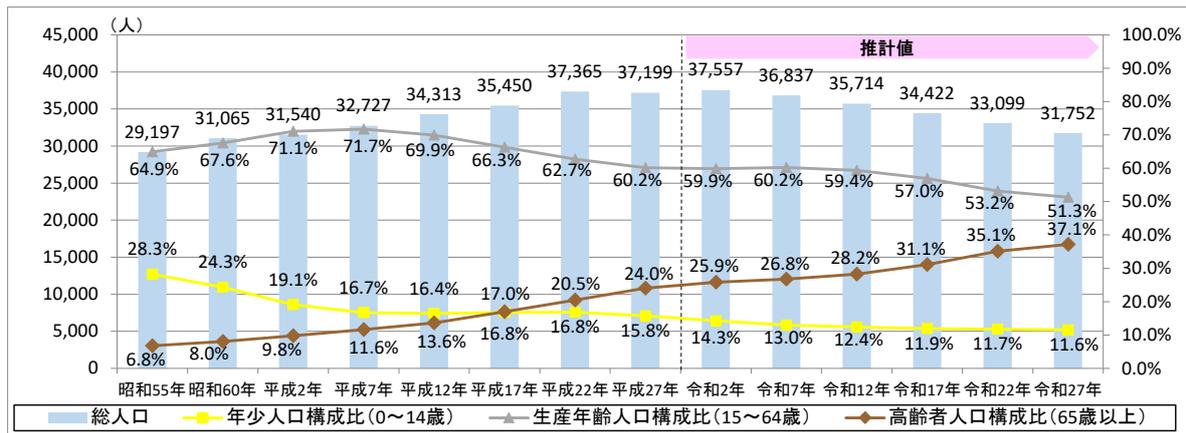
○総人口・世帯数ともに平成22年までは増加を続けていましたが、将来推計をみると、総人口は今後減少し、令和27年には31,752人まで減少すると予測されています。

【総人口・世帯数と1世帯当たり人員の推移】



出典：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

【年齢3区分別人口の推移と将来予測】



※小数点第2位を四捨五入しているため、割合の合計が100.0%にならない場合がある。

出典：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

(2) 地域別人口の状況

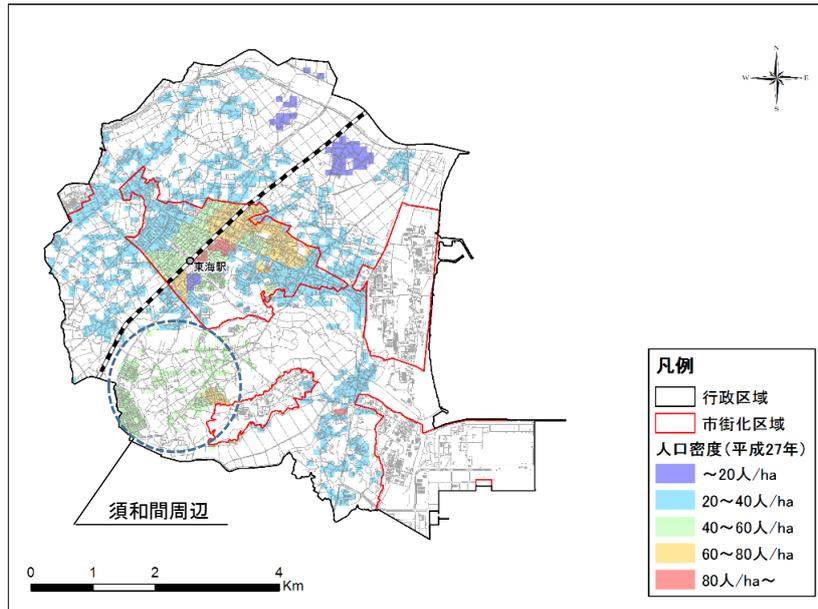
○人口密度の状況を見ると、村平均では10人/haですが、JR東海駅周辺はおおむね40人/ha以上*と高くなっています。

○市街化調整区域での人口密度は村全体の平均でみると8人/haですが、須和間周辺が40人/ha以上と高くなっています。

○村全体の平均でみると高齢化率は24.0%ですが、須和間周辺は30%以上と高く、高齢化が進んでいます。

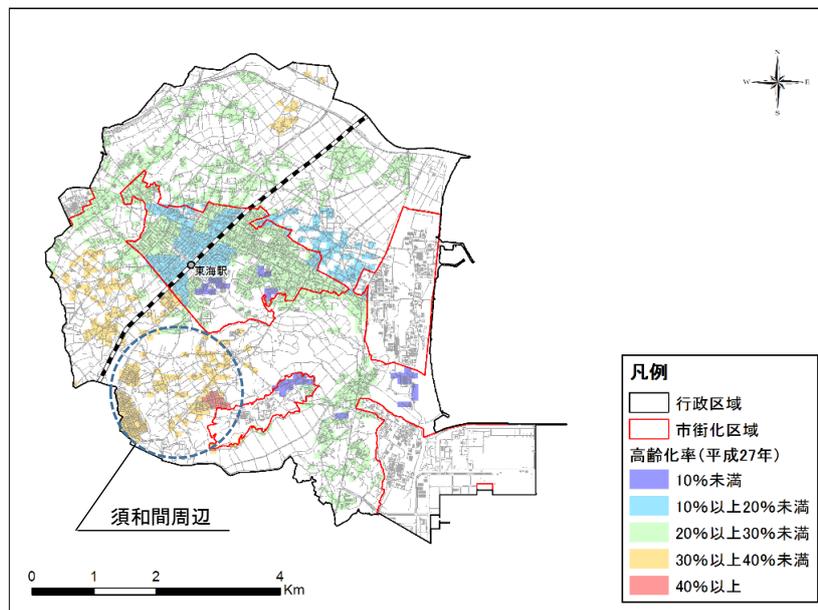
*既成市街地の基準の1つ。人口密度が40人/ha以上であることが市街地と判断する際の目安となっている。

【人口（平成27年）の状況（100mメッシュ）】



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（バージョン2.1）を用いた計算結果

【高齢化率（平成27年）の状況（100mメッシュ）】



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（バージョン2.1）を用いた計算結果

1-3 産業

(1) 商業の推移

○近年の推移をみると、事業所数、従業者数、年間商品販売額ともに減少傾向となっています。

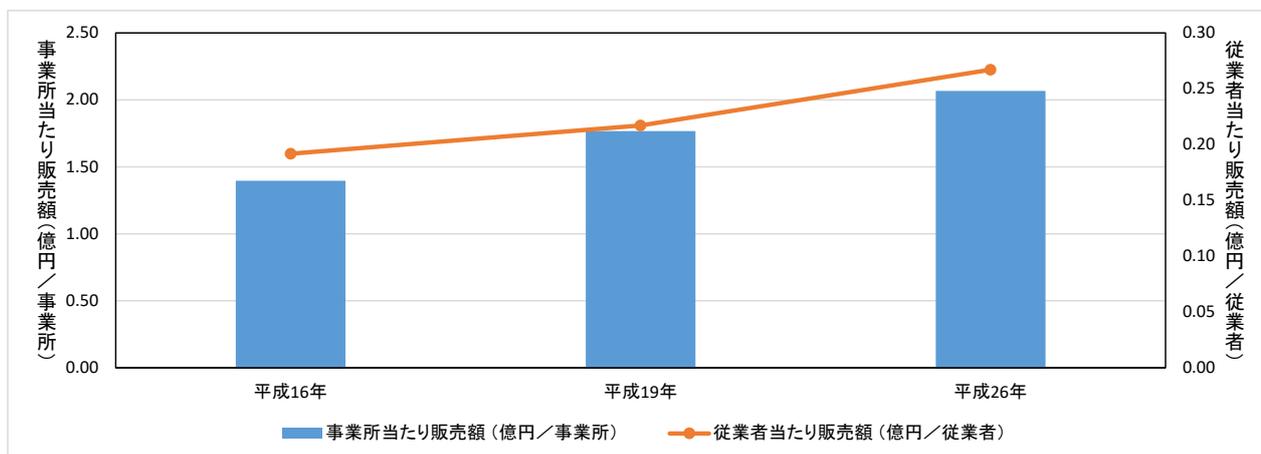
○一方、事業所当たり販売額、従業者当たり販売額は増加傾向となっていることから、小規模店舗の減少や、商業施設の大型化などが考えられます。

【商業の推移】

		平成16年	平成19年	平成21年	平成26年
総数	事業所数 (事業所)	311	287	305	211
	従業者数 (人)	2,263	2,336	2,649	1,633
	年間商品販売額 (億円)	434	507		436
事業所	事業所当たり販売額 (億円/事業所)	1.40	1.77		2.07
従業者	従業者当たり販売額 (億円/従業者)	0.19	0.22		0.27

出典：商業統計調査（平成16年、平成19年、平成26年）、経済センサス基礎調査（平成21年）

【事業所当たり販売額、従業者当たり販売額の推移】



※平成21年は経済センサス基礎調査の数字であり、卸売業・小売業別の商店数及び従業者数、年間商品販売額、売場面積の調査はしていない。

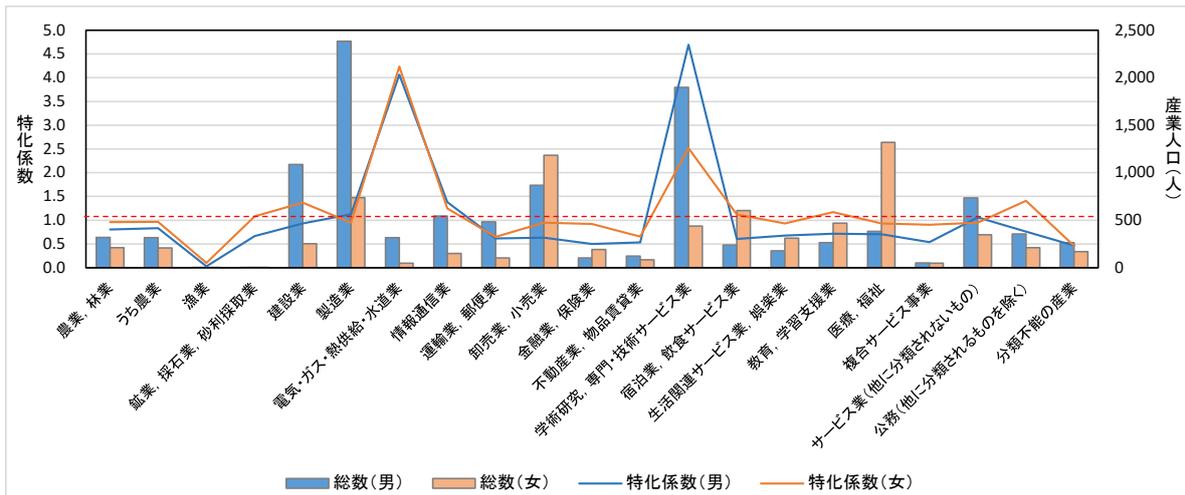
出典：商業統計調査（平成16年、平成19年、平成26年）

(2) 産業別人口の状況

○産業別人口をみると、男性は「製造業」、「学術研究、専門・技術サービス業」の順に多く、女性は「医療・福祉」、「卸売業、小売業」の順に多くなっています。

○産業の特化係数をみると、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「学術研究、専門・技術サービス業」が高く、原子力関連の産業に携わる人口が多いことがうかがえます。

【男女別産業人口】



※産業の特化係数とは、各産業の就業者比率について、全国と比べた特化の度合いであり、1.0が全国と同率であることを示し、1.0を超えると全国と比べて本村の当該産業が特化していることを示す。算出にあたっては次式による。

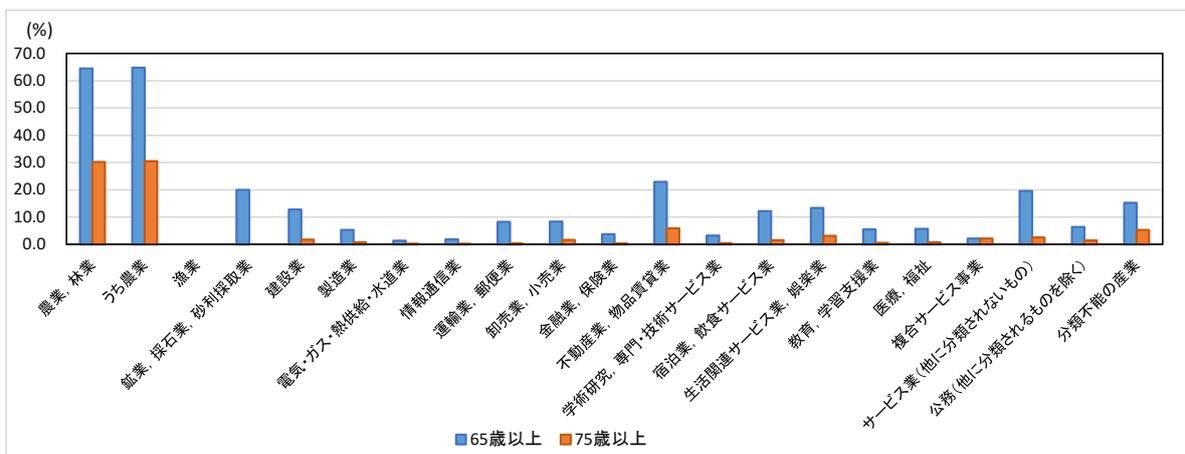
【X産業の特化係数 = 本村のX産業の就業者比率 / 全国のX産業の就業者比率】

出典：国勢調査（平成27年）

(3) 産業別高齢者人口の状況

○産業別に65歳以上の高齢者人口の状況をみると、「農業」で全体の6割以上を占めており、農業従事者の高齢化が極めて高くなっています。

【産業別高齢者人口の状況】



出典：国勢調査（平成27年）

1-4 土地利用

(1) 土地利用現況

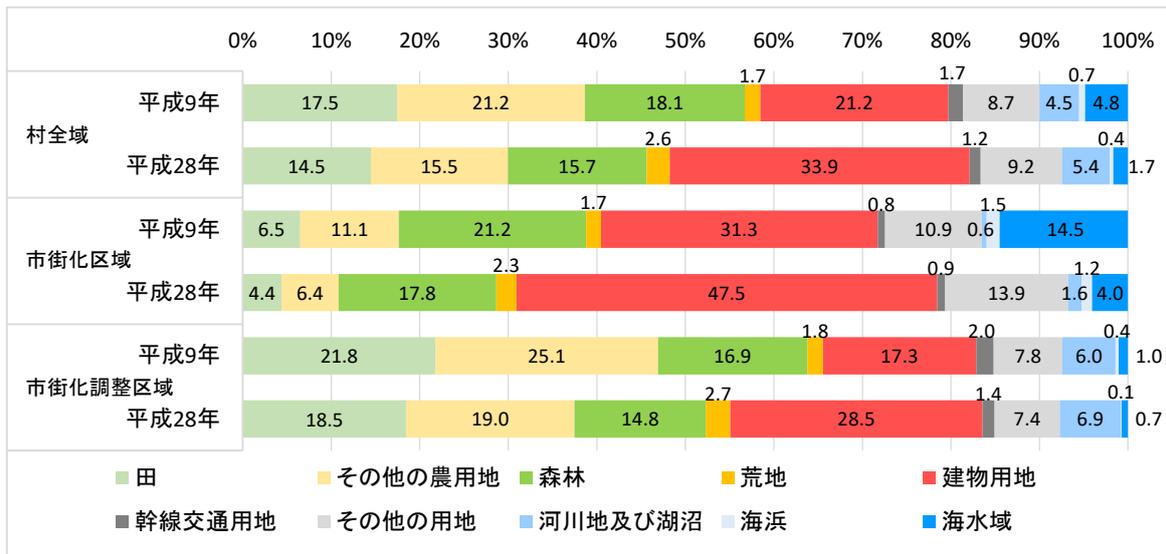
○村全域での土地利用状況の推移をみると、平成9年から平成28年までの20年間に、農地（田，その他の農用地）と森林を合わせた割合は11.1ポイント低下している一方，建物用地は12.7ポイント上昇しており，長期的にみて宅地化が進んでいます。

○建物用地の推移をみると，市街化区域で16.2ポイント，市街化調整区域で11.2ポイント，それぞれ上昇しており，いずれの区域でも増加傾向となっています。

○建物用地の分布状況をみると，市街化区域への集積が進みながらも，市街化調整区域においても満遍なく建物用地の分布が拡大しています。

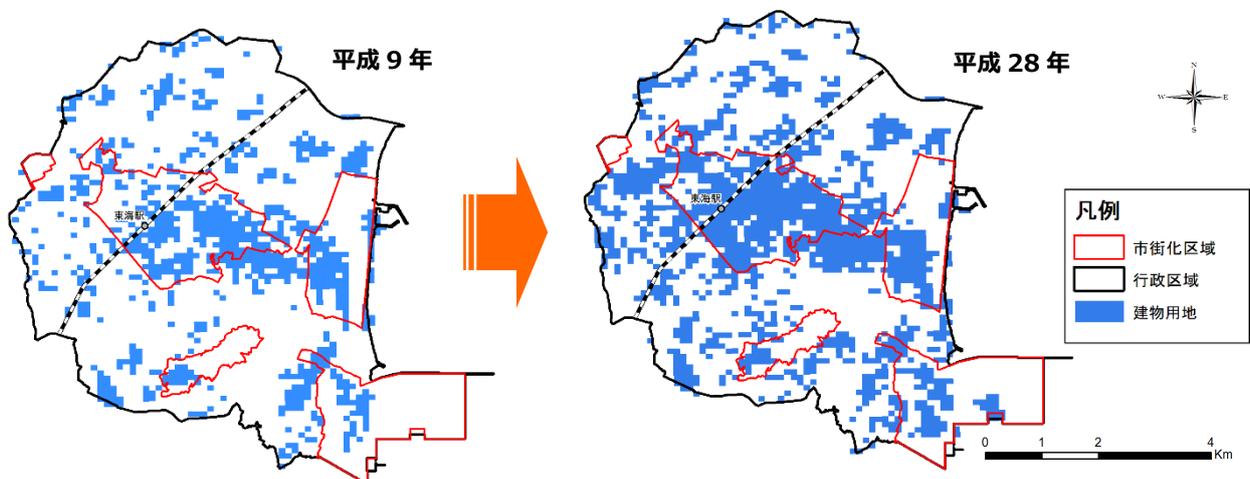
○市街化区域では，JR東海駅周辺で4地区の土地区画整理事業が施行（2地区施行中）されており，基盤整備を伴う計画的な宅地化が進められています。

【土地利用構成比の推移】



出典：国土数値情報（平成9年，平成28年）

【建物用地分布の推移】



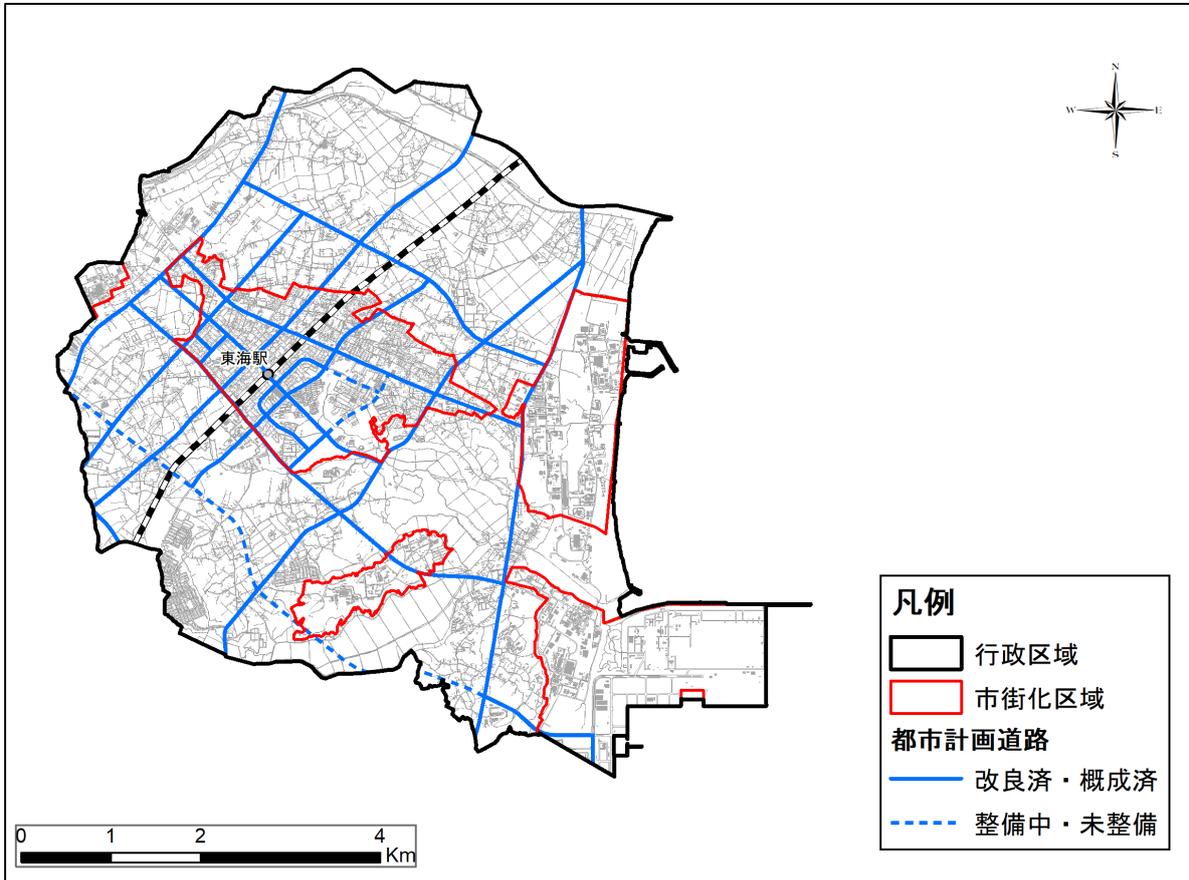
出典：国土数値情報（平成9年，平成28年）

1 - 5 道路・交通体系

(1) 都市計画道路

○都市計画道路は 21 路線が計画決定されています。

【都市計画道路の整備状況】



出典：東海村都市整備課資料（平成 31 年）

(2) 公共交通

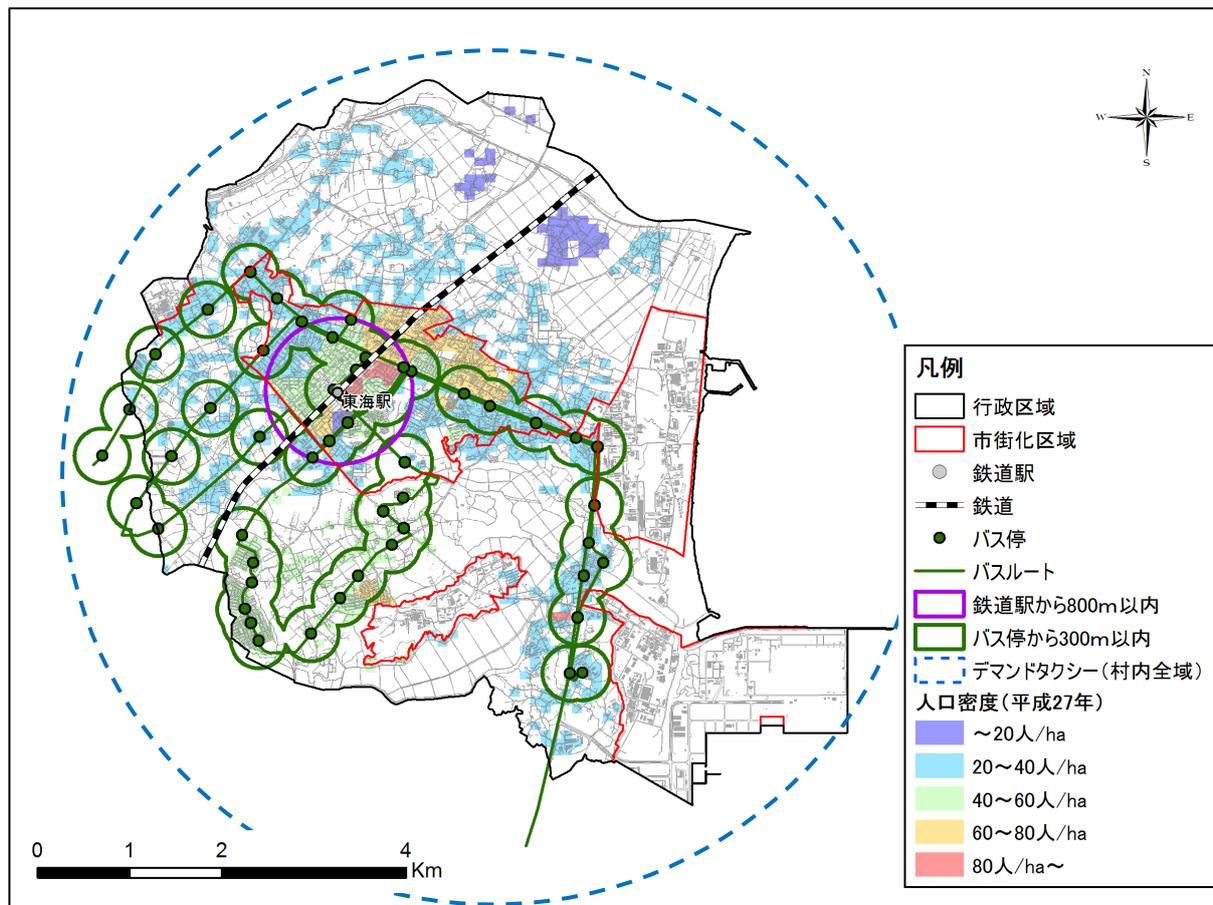
○公共交通の状況を見ると、鉄道はJR東海駅が設置されています。バスは民間事業者によるバス（5 路線）と、村営のデマンドタクシー「あいのりくん」が運行しています。

○公共交通の徒歩圏※のカバー状況を見ると、市街化区域に加えて、市街化調整区域のうち、緑ヶ丘住宅団地や南台住宅団地、フローレスタ須和間といった住宅団地沿線や、須和間の人口が集積している地域、国道 6 号、国道 245 号の沿道地域等をカバーしています。また、村内全域を発着地とするデマンドタクシーの運行によって、公共交通の徒歩圏外を補完しています。

○路線バス、デマンドタクシーの利用者数は、近年増加傾向にあります。特にデマンドタクシーは利用ニーズが多く、予約が取りにくいといった状況にあります。

※公共交通の徒歩圏については、「都市構造の評価に関するハンドブック（平成 26 年 8 月）（国土交通省）」を参考に、鉄道駅から 800m 以内、バス停から 300m 以内とした。

【公共交通のカバー状況】

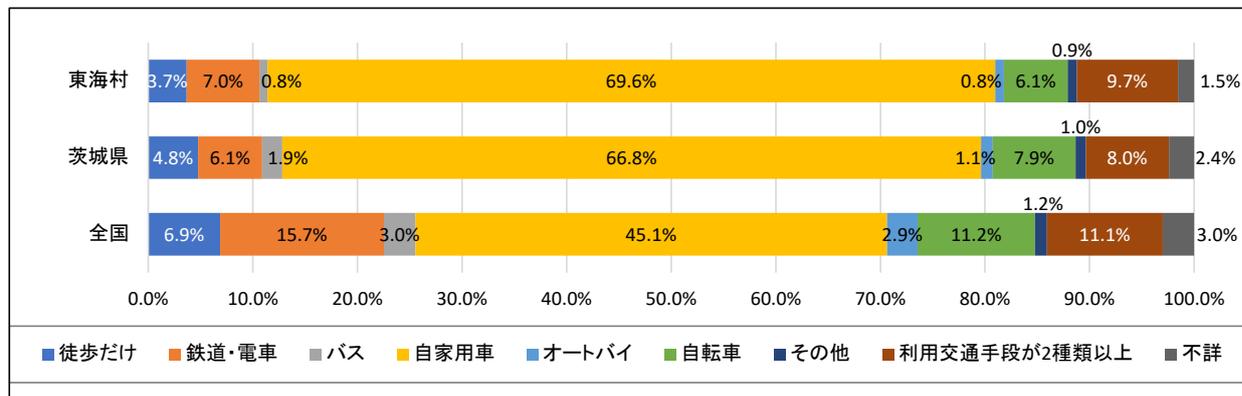


出典：とうかいむら公共交通マップ（平成 30 年 4 月）

（3）利用交通手段

○通勤・通学における交通手段をみると、自家用車利用の割合が約7割、公共交通の割合（鉄道・電車、バスの計）は1割未満となっており、全国平均と比較して、自家用車利用の割合の高さがうかがえます。

【通勤・通学における利用交通手段】



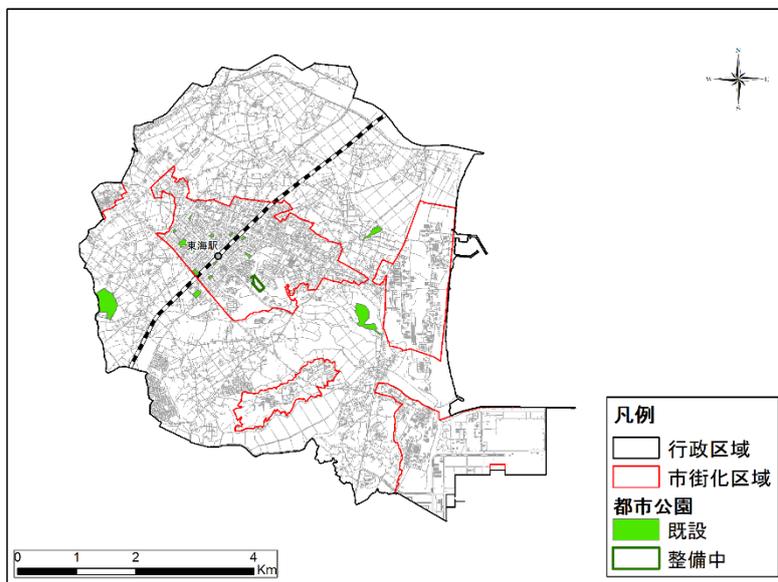
出典：国勢調査（平成 22 年）

1-6 公共公益施設

(1) 公園

○都市公園は 16 か所が計画決定されており、現在、神楽沢近隣公園の整備を進めています。

【公園位置図】

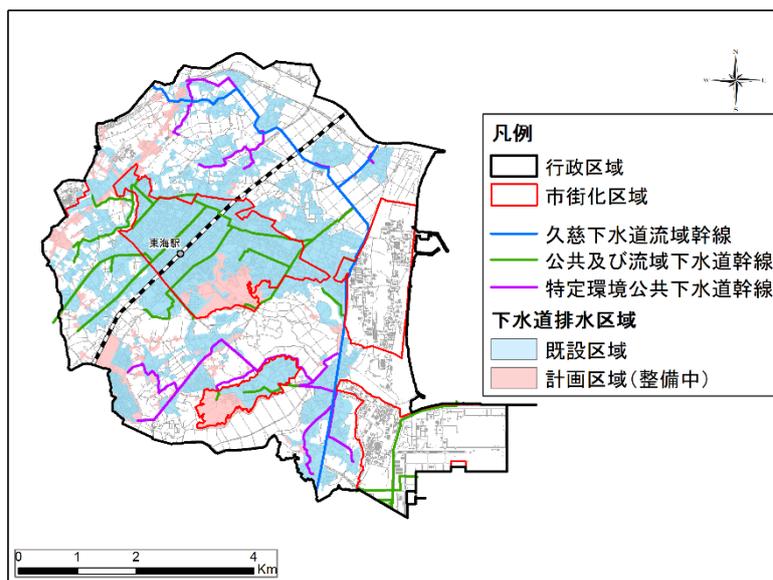


出典：都市計画基礎調査(平成 27 年 3 月)

(2) 下水道

○市街化区域において下水道はおおむね整備済みとなっています。市街化調整区域についても主要な住宅地、集落地において整備を進めています。

【下水道整備状況図】

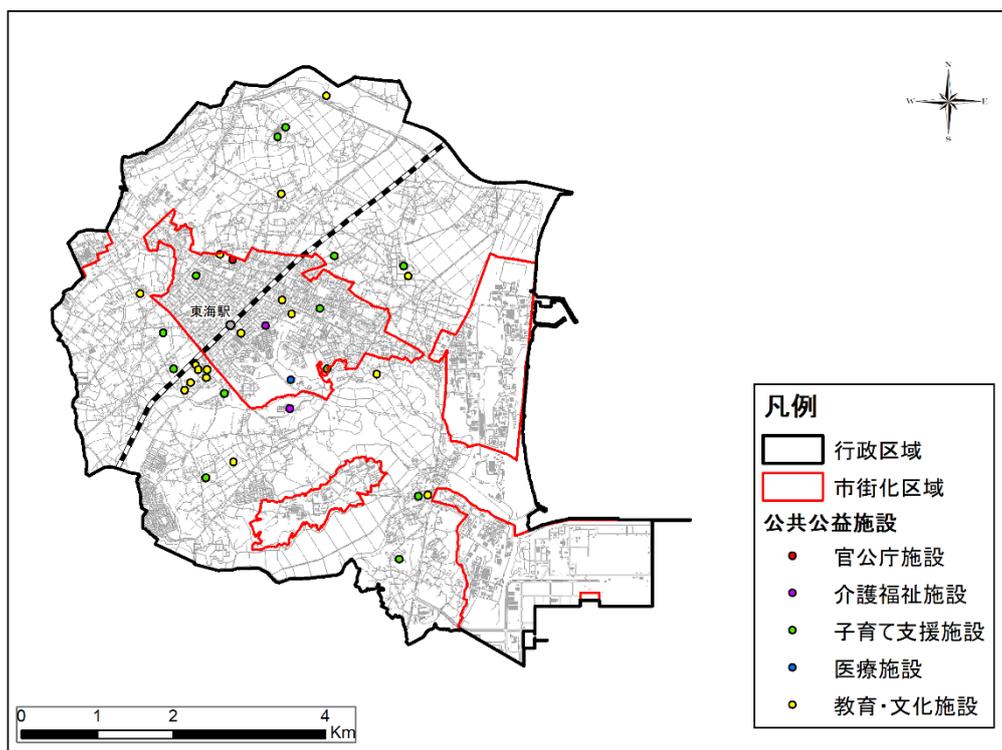


出典：東海村下水道課資料

(3) その他の公共公益施設

- 医療、福祉、教育などの公共公益施設は、市街化区域及びその周辺を中心に立地しています。
- 住民のコミュニティ形成や交流促進の拠点として、各地区にコミュニティセンターが整備されています。
- 「東海村公共施設等総合管理計画」に基づき、公共公益施設の計画的な改修や更新を進めます。

【公共公益施設位置図】



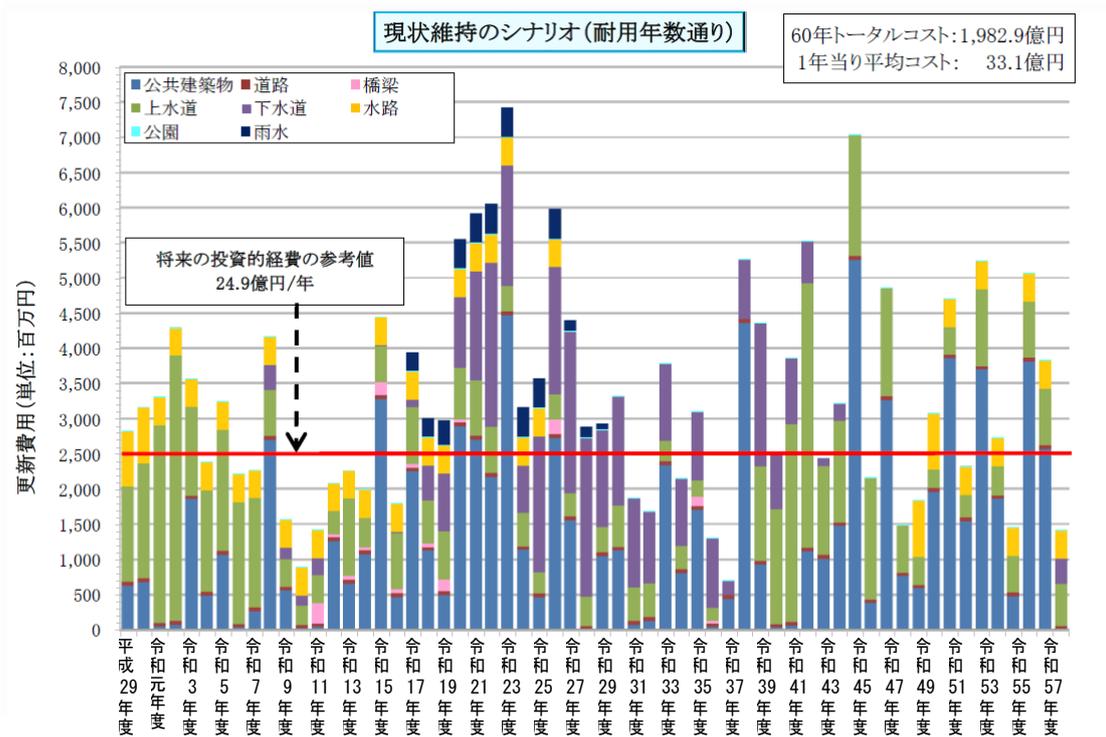
出典：東海村公共施設等総合管理計画(平成 29 年 3 月)、i タウンページ (平成 30 年度未現在)

(4) 公共公益施設の将来更新費用の見通し

○インフラを含む公共公益施設における、今後60年間の更新等に要する総事業費は、約1,983億円(年平均約33.1億円)と推計されています。

○財政見通しを踏まえた将来の投資的経費の参考値は年間24.9億円であり、今後投資的経費に係る財源不足が見込まれます。

【公共公益施設の将来更新費用の見通し】



出典:東海村公共施設等総合管理計画(平成29年3月)

1-7 都市環境

(1) 自然・緑地

○村松海岸は、日本の白砂青松百選（（社）日本の松と緑を守る会）に選定されている本村の優れた景勝地であり、隣接する豊岡海岸とともに、良好な自然環境を形成している地域として、県の自然環境保全地域に指定されています。

(2) 歴史・文化資源

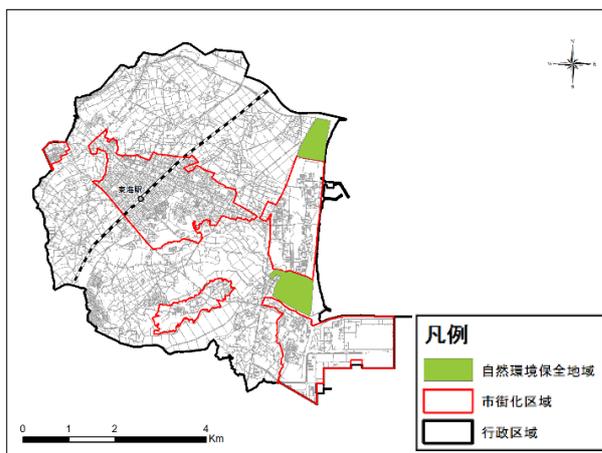
○国登録有形文化財として「照沼家住宅主屋」が登録されています。また、県指定有形文化財として「人物埴輪」及び「絹本著色聖徳太子絵伝」、県指定史跡として「石神城跡」が指定されています。

○村指定文化財として「直刀および三輪玉」をはじめとして有形文化財が12点、「十王像および奪衣婆」をはじめとして有形民俗文化財が4点、「権現山古墳」をはじめとして史跡が4点、「如意輪寺の常緑照葉樹」をはじめとして記念物が7点指定されています。また、東海村「ふるさとの自然・文化」登録文化財として、村内の樹木が29件登録されています。

○村内には、177か所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の所在が確認されています。

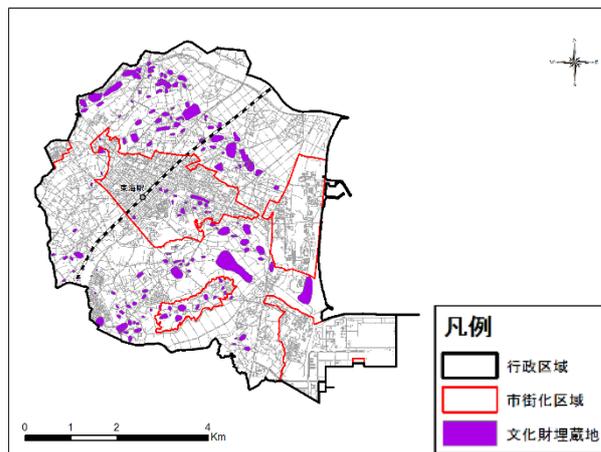
○村松地区の海浜地帯には、大神宮や村松山虚空蔵堂などの歴史の古い社寺が位置しており、多くの参拝客が訪れています。

【自然環境保全地域位置図】



出典：東海村緑地保全計画（平成12年12月）

【埋蔵文化財包蔵地位置図】



出典：東海村生涯学習課資料（平成31年）



大神宮



村松山虚空蔵堂

(3) 防災

○土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域が村内 15 か所で指定されています。

○久慈川周辺（石神地区・白方地区等）や新川河口付近（村松地区）は、津波や洪水による浸水想定区域に指定されています。

【土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域・浸水想定区域図】



出典:自然災害ハザードマップ（平成 30 年 3 月），都市計画基礎調査（平成 27 年度）

2. 住民の意向

2-1 平成 29 年度 東海村都市計画マスタープランに関するアンケート調査

■ 調査概要

都市計画マスタープランの改定にあたり、住民の日常生活やまちづくりに関する意見をうかがい、計画に反映させることを目的として、アンケート調査を実施しました。

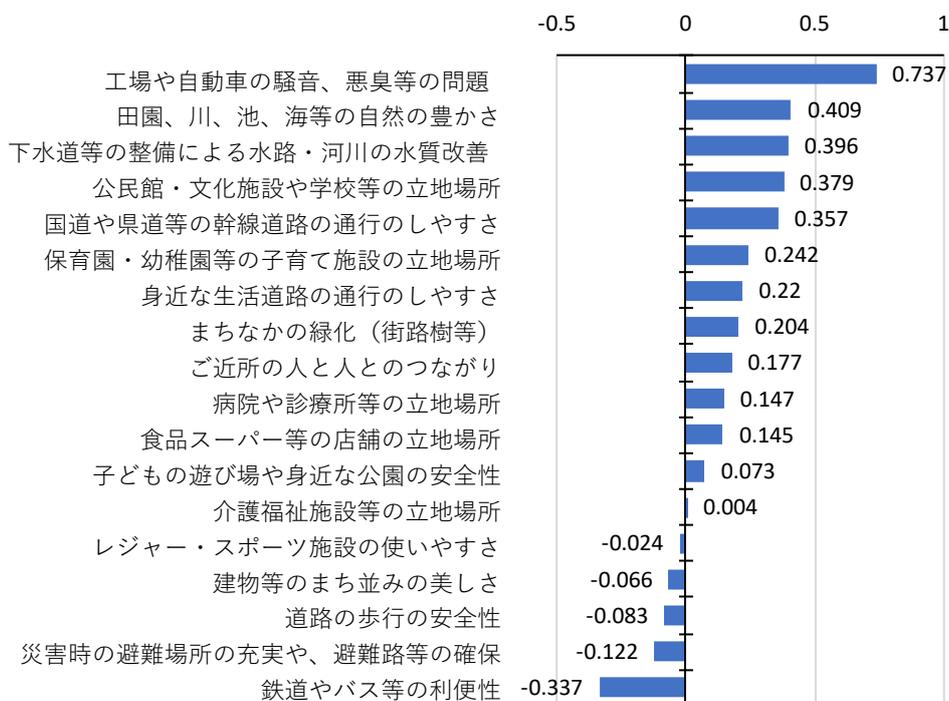
【調査概要】

- ・ 対象者 : 本村に居住する住民のうち、無作為に抽出した 20 歳以上の 1,500 人
- ・ 調査方法 : 郵送配布・郵送回収
- ・ 実施期間 : 平成 30 年 2 月 9 日～平成 30 年 3 月 6 日
- ・ 回収率 : 39.0%

■ 調査結果

(1) 生活環境の満足度

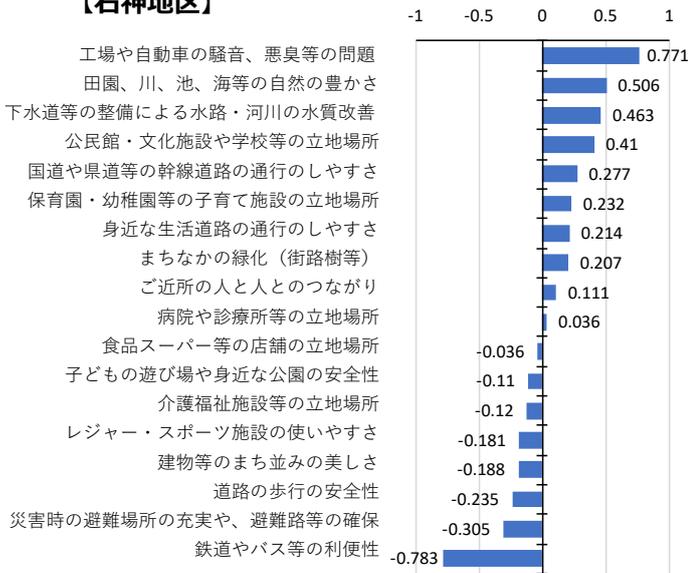
- 「工場や自動車の騒音、悪臭等の問題」に対する評価点※が最も高く、「田園、川、池、海等の自然の豊かさ」、「下水道等の整備による水路・河川の水質改善」と続いており、生活衛生面に対する満足度が高いことがうかがえます。
- 一方、「鉄道やバス等の利便性」に対する評価点が最も低く、「災害時の避難場所の充実や、避難路等の確保」、「道路の歩行の安全性」と続くことから、公共交通や道路整備の充実が望まれています。



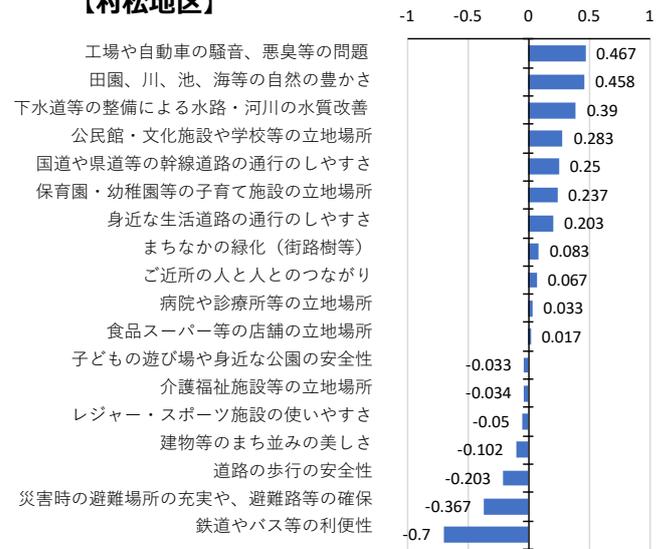
※ここでの評価点とは、各回答を数値化（満足（良い）：+2，まあ満足（良い）：+1，普通：0，やや不満：-1，不満：-2）し、それら数値の平均値とした。

<参考> 生活環境の満足度：地区別集計結果

【石神地区】



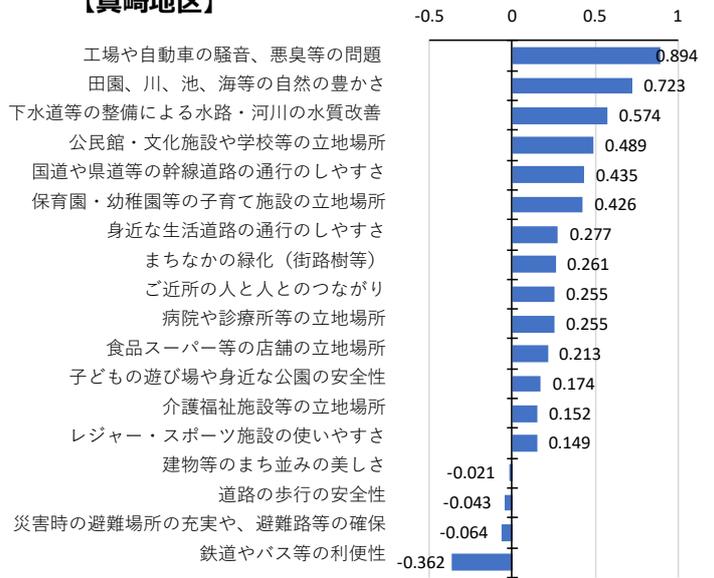
【村松地区】



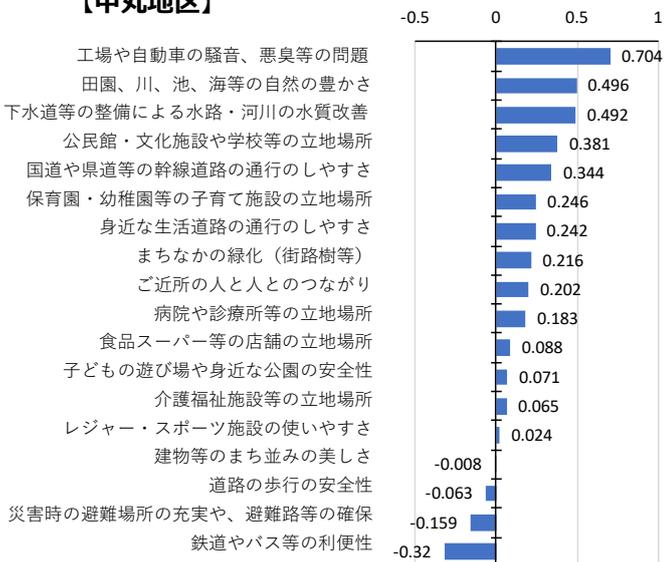
【白方地区】



【真崎地区】



【中丸地区】

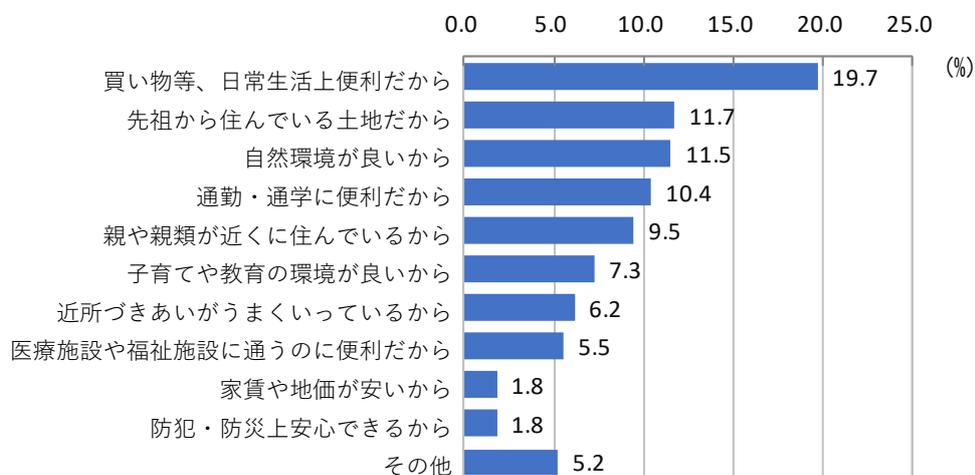


【舟石川・船場地区】



(2) 村内に住み続けたい理由について

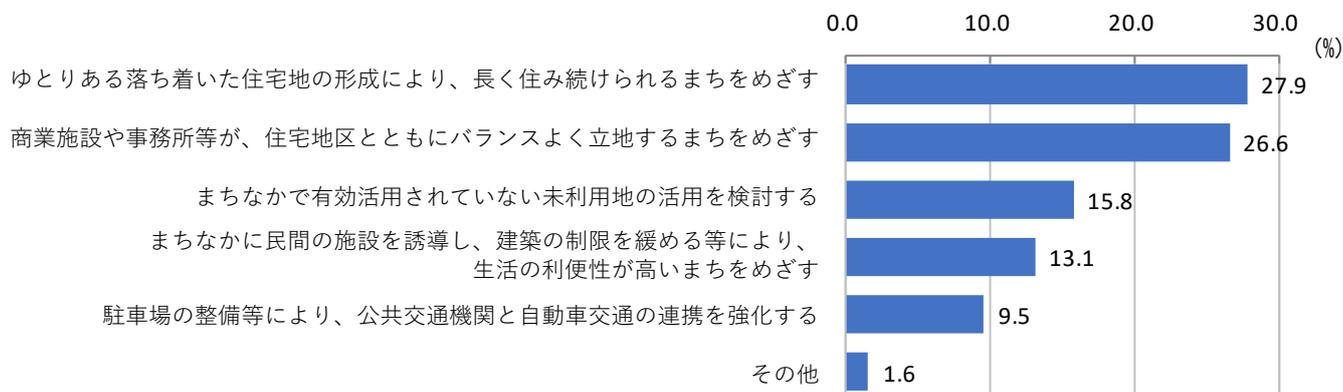
○「買い物等，日常生活に便利だから」が最も高く，「自然環境が良いから」，「通勤・通学に便利だから」が上位に挙げられていることから，日常生活の利便性に対する満足度が高くなっています。



(3) 土地利用のあり方について

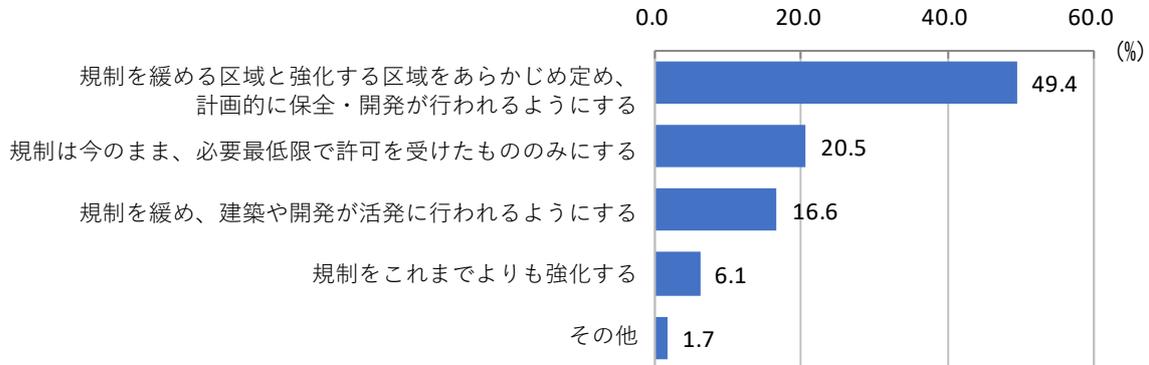
<市街化区域内の土地利用>

○「落ち着いた住宅地の形成」や「商業・業務施設と住宅がバランスよく立地するまち」が上位にあげられていることから，良好な居住環境の形成が望まれています。



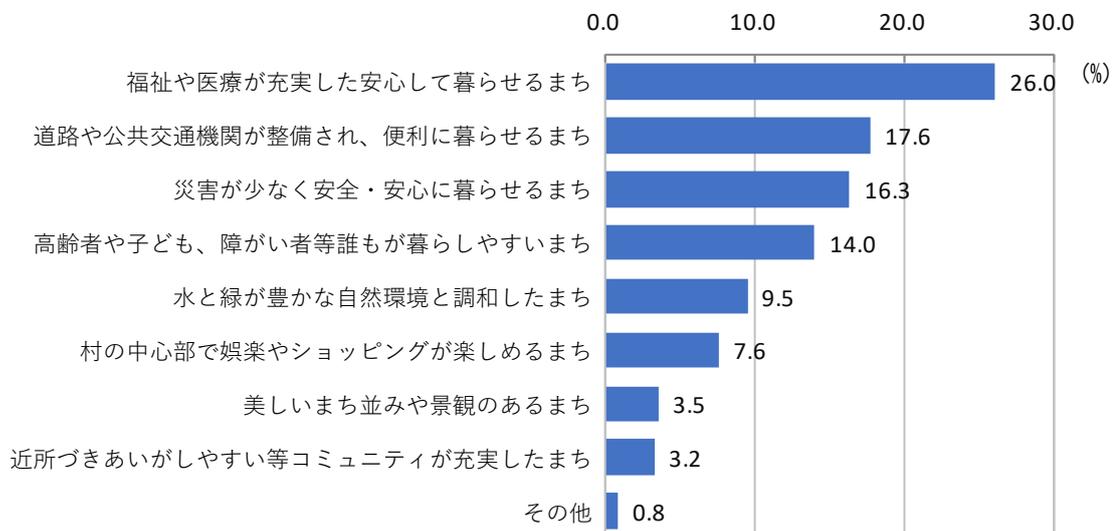
<市街化調整区域内の土地利用>

○「計画的な保全・開発～」が約半数を占めていることから、無秩序な開発ではなく、開発を促進する区域と保全する区域の指定が望まれています。



(4) 将来のまちの姿について

○「福祉や医療が充実した安心して暮らせるまち」が最も高く、「道路や公共交通機関が整備され、便利に暮らせるまち」、「災害が少なく安全・安心に暮らせるまち」が上位に挙げられていることから、安全・安心の充実（福祉・医療の充実、災害対策の充実）や、インフラを含めた交通環境の利便性向上が望まれています。



3. まちづくりの課題

本計画策定にあたり、本村の課題を以下のとおり整理します。

3-1 都市の構造課題

現況特性・問題点等	課題のまとめ
<p>【社会動向の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口減少社会の到来 ○少子高齢社会への対応 ○中心市街地の活性化 	<p>■人口減少、少子高齢社会に対応した、機能的で暮らしやすい居住環境を提供していく必要があります。</p> <p>■市街化調整区域の土地利用を整理し、市街化区域において適正な人口密度を維持していくよう、宅地整備や居住を誘導していく必要があります。</p>
<p>【本村の現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化と核家族化の進行 ○将来人口推計における人口減少の予測 ○市街化調整区域の宅地化拡大 	
<p>【住民意向】</p> <p>—</p>	

3-2 土地利用に関する課題

(1) 本村の中心拠点

現況特性・問題点等	課題のまとめ
<p>【社会動向の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口減少社会の到来 ○少子高齢社会への対応 ○中心市街地の活性化 ○急速な技術革新への対応 	<p>■本村のにぎわいの創出と活性化に向けて、駅周辺を中心とした商業地の魅力づくりを推進する必要があります。</p> <p>■商業・業務機能などの既存の産業系土地利用を市街化区域へ適正に誘導する必要があります。</p>
<p>【本村の現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理事業による計画的な市街地整備の実施 ○事業所当たり販売額、従業者当たり販売額の増加 	
<p>【住民意向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市街化区域は商業・業務施設と住宅の適正な立地が望まれている 	

(2) 山林・農地などの自然的土地利用の保全

現況特性・問題点等
【社会動向の変化】 ○環境問題の顕在化 ○緑・景観に対する意識・価値観の変化
【本村の現況】 ○農地・山林等の減少 ○農業従事者の高齢化 ○自然環境保全地域の指定
【住民意向】 ○自然の豊かさへの満足度が高い ○市街化調整区域は計画的な土地利用が望まれている

課題のまとめ
■ 本村の貴重な地域資源である、農地や山林などの緑・自然環境を将来にわたって保全し、次世代へ継承していく必要があります。
■ 農地の荒廃や農地転用を抑制し、農業生産基盤を維持するとともに、今後の農業を担う後継者を確保する必要があります。

3-3 道路・交通体系に関する課題

現況特性・問題点等
【社会動向の変化】 ○人口減少社会の到来 ○少子高齢社会への対応 ○中心市街地の活性化 ○物流・交通網の発達
【本村の現況】 ○都市計画道路の一部が未整備 ○路線バス・デマンドタクシー利用者の増加 ○通勤・通学における自家用車利用率が高い
【住民意向】 ○国道や県道等の幹線道路の通行のしやすさの満足度が高い ○道路や公共交通機関が整備され、便利に暮らせるまちが望まれている

課題のまとめ
■ 円滑な広域交通網の構築のため、都市計画道路や主要な幹線道路の維持管理を推進する必要があります。
■ 公共交通網を維持するとともに、高齢化の進行等を考慮し、過度に自家用車に依存しない交通環境を構築する必要があります。

3-4 公共公益施設に関する課題

現況特性・問題点等
【社会動向の変化】 ○公共公益施設のあり方の変化（適正な維持管理）
【本村の現況】 ○都市計画公園のうち神楽沢近隣公園が整備中 ○市街化区域での下水道未整備区域の存在 ○更新時期を迎えた公共公益施設が多く存在しています。
【住民意向】 ○下水道整備による河川等水質改善の満足度が高い ○公民館・文化施設や学校等の立地場所の満足度が高い ○公園や広場の整備が望まれている。



課題のまとめ
■人口（生産年齢人口）の減少に伴う 税収減に対応するよう、公共公益施設・インフラ施設の維持・更新を計画的に行っていく必要があります。
■民間活力の導入など、効果的に公共公益施設等の維持管理を行う 必要があります。

3-5 防災に関する課題

現況特性・問題点等
【社会動向の変化】 ○災害に強い、安全・安心意識の高まり
【本村の現況】 ○土砂災害警戒区域等の指定 ○津波・洪水による浸水被害の予測 ○降雨による浸水箇所が存在 ○原子力関連施設の立地
【住民意向】 ○避難場所の充実・避難経路の確保が望まれている



課題のまとめ
■住民生活の安全確保に向けて、減災への 取り組みを推進するとともに、避難所の環境及び避難路の確保に努める必要があります。
■原子力関連施設が立地していること から、関係機関との連携を強化し、原子力災害に対しても十分な安全対策に取り組む必要があります。

3-6 都市環境に関する課題

現況特性・問題点等
【社会動向の変化】 ○緑・景観に対する意識・価値観の変化
【本村の現況】 ○大神宮や村松山虚空蔵堂，石神城跡など，多様な歴史資源の立地 ○自然環境保全地域の指定 ○原子力関連施設の立地
【住民意向】 ○自然の豊かさへの満足度が高い ○村内のさまざまな資源を活用したまちづくりが求められている



課題のまとめ
■本村の活性化に向けて，特色ある地域資源を活用した交流人口の増加やうるおいのある居住環境の形成に取り組む必要があります。